

ハンガリー政府、いち早くカザフ政権支持を打ち出す

オルバン首相とスィーヤルトー対外経済・外務大臣は1月11日、カザフスタンのトカイエフ大統領支持を打ち出し、事実上、ロシア軍によるカザフスタンへの軍事介入を支持する姿勢を明確にした。ロシアやカザフ大統領の見解を肯定し、「デモ隊鎮圧はカザフスタンの憲法的秩序が破壊されることにたいする正当な行為」であり、「ハンガリー政府はカザフ政権への支援を惜しまない」と、ロシアや中国と同調する態度を明確にした。

この態度は、EU首脳が表明してきた態度やV4諸国との態度とは一線を画するもので、EU加盟国で唯一、カザフ政権支持を表明していることは興味深い。「カザフのデモ隊が暴徒化したのは背後に外国勢力がいる」というカザフ政権の見解を支持し、国際監視団や国際NGOがこの状況で入り込む余地はないと明言している。

昨年、アメリカが主導した「民主主義サミット」にEU加盟国から唯一招待されなかったハンガリーは、ますますロシアや中国への傾斜を強めている。EU首脳はカザフ大統領による「デモ隊への警告なしの銃火器使用」への懸念を伝えているが、1956年動乱を経験しているハンガリーが、「銃火器使用の正当性」を認めるのは異例である。反社会主義反共産主義を唱えながら、ロシアや中国の専制政治へ傾斜しているハンガリーの現政権は言行不一致であると言わざるを得ないが、明らかにその背後には権力維持と隠された利権獲得の現実的な欲求がある。

現ハンガリー政権は自らの権力維持のためには自らが唱える思想やイデオロギーを曲げても、現実的利益のために動くという行動をとる。FIDESZのイデオロギーはただの飾りに過ぎない。資源国カザフの政権と良好な関係を築くことは、対カザフ権益（国家利益ではなく、FIDESZの息のかかった会社の利益）の保持のために必要であり、それはロシアとの関係を維持することでも重要である。オルバン首相は近々、プーチン大統領との会談を予定している。

イスラエルのスパイウェア Pegasus 事件のその後

ハンガリー政府がイスラエルのスパイウェアを使って、政府に批判的なメディア記者や実業家を盗聴していることが暴露されたが、ハンガリー政府は Pegasus 購入を認めていない。しかし、すでにコーシャ・ラヨシュ FIDESZ 議員は11月の国会委員会の後に、「内務省が購入した」ことを明らかにしている。他方、内務大臣はイエスともノーとも答えておらず、国会の防衛委員会における Pegasus 問題の議論は、2050年まで機密とされている。一方、ポーランドでは与党率いる PiS（法と正義）党首のカチンスキーが Pegasus 購入を認めた。

1月4日付けの Neue Zürcher Zeitung は、Pegasus 事件が報道されてから、102の顧客（契約者）が37に減少したことを報じている。このスパイウェアを販売している企業 NSO

は、事件がスキャンダル化しているハンガリーとポーランドとの契約を破棄したという。また iPhone がターゲットになったことで、Apple 社は NSO を提訴している。

ハンガリー大統領の地位と報酬

ハンガリーでは自由選挙後に国会で選出された大統領は法学者マードル・フェレンツ、その後が 1956 年動乱で死刑判決を受けた文人グウンツィ・アルパード、彼を継いだのは法学者ショーヨム・ラースローで、ハンガリー社会でそれなりの地位を築き、良識ある人物として評価されてきた人々である。

FIDESZ 政権になって、政治家のアーデル・ヤーノシュが大統領に選出され、政治家が大統領になる事例が作られた。もっとも、アーデルはアカデミー社会学研究所に研究員として勤めていたことがあり、学究的な経歴をもっている。1989 年に FIDESZ に加わり、党の重鎮として活動してきた。野党政治家との関係も悪くなく、幼児性の強い政治家が多い FIDESZ にあって、大人の政治家である。

オルバン首相は国会での議論を経ることなく、今年 4 月に任期が切れるアーデル大統領の後任に、ノヴァク・カタリン（1977 年生まれ）を指名した。彼女は外務省職員を経て、人材資源省の家族担当官を務め、2018 年に国会議員となって 2020 年から家族担当無任所大臣になっている。基本的には政府官僚出身で、国会議員になって 3 年目の女性である。当初、オルバン首相は法務大臣のヴァルガ・ユーディットを考えていたようだが、Pegasus 事件だけでなく、同性愛者だという風評が出た段階で、ノヴァクに切り替えたのではないかと言われている。

この後者の件は、ジュール市元市長ボルカイのセックススキャンダルを暴露した Az ördög ügyvédje（悪魔の弁護士）が、Facebook にヴァルガ・ユーディットは同性愛者だという書き込みをおこなっている問題である。ハンガリー政府は権力基盤を強化するために、「同性愛にかんする教育を公的機関で行ってはならない」という法律を制定し、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長から厳しく批判を受けている。4 月の国民投票を控え、無用な混乱を避けようとしたと考えられる。

ただ、オルバン首相の盟友で欧州議会議員だったサイエル・ヨーージェフがブリュッセルで、コロナ規制の最中、同性愛者のパーティに出て、ベルギー警察に拘束され議員を辞職した（2022 年 12 月）。また、オルバン首相の長男が、大学の卒業論文で、同性愛に関する論考を発表しており、FIDESZ の法律制定と矛盾する事件が周辺で起きている。なんとも皮肉なことだ。

いずれにしても、ここ 2 年の家族担当相の活動以外、特筆すべき社会活動歴のないノヴァク女史が大統領に指名されるということになれば、ハンガリー大統領の地位が限りなく低くなる。まさにモスキート級大統領誕生ということになるろう。もっとも、こういう事例が続けば、大統領になるのにそれほどの資質は要らなくなり、ハンガリー大統領はほとんど飾

りに近いになるであろう。

モスキート級とは言え、ハンガリー大統領にはそれなりの物的条件が保証されている。本人のみならず、配偶者にも私用と公用の車が付く。配偶者にも必要と認定されれば、2名の秘書が付く。大統領報酬は国家議長の1.1倍と決められており、およそ月額400万Ft（およそ150万円）である。それほど高くないと思われるかもしれないが、ほとんどの生活費用が公費で賄われた上での報酬であり、報酬のほとんどが貯蓄に回される。大統領を辞めてからの年金額も、ほぼこれに匹敵する。さらに、大統領を辞めてからも、車の提供が続くし、必要とされる場合には3名の秘書と事務所が保証される。

このような条件がハンガリーの経済状況に見合っているかどうか。40歳そこそこで、たまたま政権政党の政治家になって2年間大臣を務めただけで、一生生活に困らない保証が得られる。もっとも、体制転換時の首相だったネーメットも、ハンガリーの首相年金とEBRD副総裁の年金で、50歳を過ぎてからバラトン湖畔で悠々自適の年金生活を送っている。ハンガリーは右翼左翼にかかわらず、エリートに特権的な地位を保障している。